

試験研究成果普及情報

| | | | |
|--|--|----|----|
| 部門 | 野菜 | 対象 | 普及 |
| 課題名：ピーマン PMMoV 抵抗性品種「京鈴」の半促成 2 色どり栽培法 | | | |
| 〔要約〕 ピーマン PMMoV 抵抗性品種「京鈴」の半促成 2 色どり栽培で、定植時の苗の大きさを第 1 分枝出現時の若苗、主枝の仕立て本数を 3 本、株間を 45cm とすることで、草勢が維持され未成熟果と完熟果を合わせた上物収量は 1 割以上増収する。 | | | |
| キーワード ¹⁾ ピーマン、半促成、2 色どり、若苗、仕立て本数、PMMoV、京鈴 | | | |
| 実施機関名 | 主 査 農業総合研究センター北総園芸研究所砂地野菜研究室 協力機関 海匠農林振興センター・JA ちばみどりそうさ園芸部 | | |
| 実施期間 | 2004 年度～2006 年度 | | |

〔目的及び背景〕

匝瑳地域はピーマンの特産地で、4 月定植の半促成栽培が主体である。この作型で生育前半の 7 月末までは未成熟果の収穫、その後 11 月までは完熟果を収穫する地域特有の 2 色どり栽培が行われている。しかし、PMMoV(トウガラシマイルドモットルウイルス)の発生が大きな問題となり、対策として、抵抗性品種の「京鈴」(タキイ種苗)を導入した。しかし、この品種は、やや草勢が弱いことから収量の安定性に問題があり、草勢の維持及び収量を確保するための栽培技術の確立が求められていた。

〔成果内容〕

- 1 定植時の苗の大きさは、若苗(第 1 分枝出現時の苗)が、慣行苗(1 番花(第 1 分枝基部)開花直前の苗)より、主枝の伸長に優れ、主枝の節数も増加する(表 1、表 2)。若苗定植による未成熟果と完熟果の上物合計収量は、慣行苗と比較し、主枝の仕立て本数にかかわらず 4%以上増収する(表 3)。
- 2 主枝の仕立て本数は、1 株 3 本が 4 本より主枝が太くなり草勢が維持される(表 2)。3 本仕立ての未成熟果と完熟果の上物合計収量は、4 本仕立てと比較し、定植時の苗の大きさにかかわらず 6～15%以上増収する(表 3)。
- 3 若苗定植と 3 本仕立ての組み合わせは、慣行苗定植 4 本仕立て(標準)と比較し、上物収量が、未成熟果で 8～25%、完熟果で 3～13%、未成熟果と完熟果合計では 11～15%以上増収する(表 3)。

〔留意事項〕

- 1 株間は、単位面積当たりの仕立て本数を揃えるため、慣行 4 本仕立ては 60cm であるが、3 本仕立ては 45cm とする。

〔普及対象地域〕

県内ピーマン栽培地帯

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕 2007 年から匝瑳地域の半促成栽培に導入される予定。

[成果の概要]

表1 ピーマン定植1か月後の生育(2006年)

| 定植苗－仕立て本数 | 主枝の長さ | 主枝の節数 |
|------------|-------|-------|
| | (cm) | (節) |
| 若 苗－3本 | 61.0 | 9.3 |
| 若 苗－4本 | 61.6 | 9.1 |
| 慣行苗－3本 | 49.4 | 7.7 |
| 慣行苗－4本(標準) | 47.9 | 8.2 |

注1)5月30日調査。

2)床幅は90cmで1条植え。株間は、慣行栽培の4本仕立てでは60cm、3本仕立てでは45cmとし、単位面積当たりの仕立て本数は同一。

3)定植苗は、慣行苗(66日育苗)が1番花(第1分枝の基部)開花直前の苗、若苗(57日育苗)が第1分枝出現時の苗。

表2 ピーマン収穫終了時の生育(2006年)

| 定植苗－仕立て本数 | 主幹の太さ | 主枝の節数 | 主枝の太さ | |
|------------|-------|-------|---------|---------|
| | | | 10-11節間 | 20-21節間 |
| | | | (mm) | (mm) |
| 若 苗－3本 | 21.9 | 24.2 | 8.1 | 5.8 |
| 若 苗－4本 | 23.3 | 24.9 | 7.6 | 5.7 |
| 慣行苗－3本 | 24.0 | 23.7 | 7.9 | 5.7 |
| 慣行苗－4本(標準) | 24.2 | 23.8 | 7.5 | 5.7 |

注1)11月29日調査。

2)主幹の茎の太さは、第1分枝直下の節間を測定。

表3 ピーマンPMMoV抵抗性品種「京鈴」の半促成2色どり栽培の年次別上物収量

| 定植苗－仕立て本数 | 2005年上物収量 | | | | | | 2006年上物収量 | | | | | |
|------------|-----------|-----|---------|-----|---------|-----|-----------|-----|---------|-----|---------|-----|
| | 未成熟果 | | 完熟果 | | 合計 | | 未成熟果 | | 完熟果 | | 合計 | |
| | (t/10a) | 比 | (t/10a) | 比 | (t/10a) | 比 | (t/10a) | 比 | (t/10a) | 比 | (t/10a) | 比 |
| 若 苗－3本 | 4.2 | 108 | 5.8 | 113 | 10.0 | 111 | 5.9 | 125 | 4.2 | 103 | 10.1 | 115 |
| 若 苗－4本 | 4.1 | 105 | 5.3 | 104 | 9.4 | 104 | 5.6 | 118 | 3.8 | 94 | 9.4 | 107 |
| 慣行苗－3本 | 4.1 | 105 | 5.5 | 107 | 9.6 | 106 | 5.0 | 105 | 4.4 | 108 | 9.4 | 106 |
| 慣行苗－4本(標準) | 3.9 | 100 | 5.1 | 100 | 9.0 | 100 | 4.7 | 100 | 4.1 | 100 | 8.8 | 100 |

注1)未成熟果及び完熟果の上物は、1果重が25g以上で変形や病虫害などの無いもの。

2)収穫期間は、未成熟果が5月～7月、完熟果が8月～11月。

[発表及び関連文献]

平成 16、17 年度 農業総合研究センター北総園芸研究所試験成績書

平成 16、17 年度 野菜試験研究成績概要集

[その他]